

## 為替週間展望 = ドル円は上昇基調が継続して一段高か

[ 10月24日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		10月17日～10月21日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	148.71	150.45(21)	148.19(18)	150.39	+1.72
ユーロ・ドル	0.9719	0.9876(18)	0.9711(17)	0.9770	+0.0048

  

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	26,890.58	-200.18	日本10年債利回り	0.251	0.000
ダウ平均株価	30,333.59	+698.76	米10年債利回り	4.228	+0.210

< 来週の主要経済統計等 >

- 24日 独10月製造業PMI速報値、独10月非製造業PMI速報値  
ユーロ圏10月製造業PMI速報値、ユーロ圏10月非製造業PMI速報値  
英10月製造業PMI速報値、英10月非製造業PMI速報値  
米10月製造業PMI速報値、米10月サービス業PMI速報値
- 25日 独10月ifo景況感指数  
米8月住宅価格指数、米8月S&Pケースラー住宅価格指数  
米10月消費者信頼感指数
- 26日 豪9月消費者物価指数、豪第3四半期消費者物価指数  
日本8月景気動向指数改定値  
カナダ銀行(BOC)政策金利  
米9月新築住宅販売件数
- 27日 欧州中央銀行(ECB)政策金利  
ラガルドECB総裁記者会見  
米第3四半期GDP速報値  
米9月耐久財受注速報値、米新規失業保険申請件数
- 28日 日本9月雇用統計、日本9月有効求人倍率  
豪第3四半期生産者物価指数  
日銀金融政策決定会合(27～28日)・金融政策発表、展望レポート発表  
黒田日銀総裁記者会見  
スイス10月KOF先行指数  
独第3四半期GDP速報値、独10月消費者物価指数  
米9月個人消費支出(PCE)デフレーター  
米9月個人所得・個人支出、米第3四半期雇用コスト指数  
米10月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】強い米消費者物価指数の結果を受けて、FRBは一段と利上げ姿勢を強めるとみられる。一方で、日銀は緩和姿勢を継続しており、ドル円は上昇基調で推移しそうで、介入警戒感や実際の円買い介入により、ドル円が一時的に下落しても、緩やかに上値を迫る流れは継続するとした。

【ドル円は150円の節目を上抜く】

10月14日に発表された米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値は市場予想を上回った。また、消費者の予想インフレ率が1年先も5年先も予想を上回った。米連邦準備制度理事会(FRB)による積極的な金融引き締めにつながるとの見方から、ドル買い円売りにつながり、ドル円は148円台後半まで上昇した。

FRBによる利上げ継続姿勢に加えて、日銀は金融緩和策を維持しており、ドル円は

ドル買い円売りの流れが継続して17日には149円台に乗せた。政府・日銀による介入警戒感も高まっており、18日には149円台前半から一時148.19近辺まで急落する場面も見られた。ただ、その後はすぐに値を戻している。19日のNY市場では149.90台後半まで上昇した。

20日のロンドン市場で一時150円台に乗せた。その後は荒れた動きとなって149円台半ばまで調整したものの、NY時間に再び上げに転じて150.20台まで上昇した。ハーカー・米フィラデルフィア連銀総裁が「インフレ抑制が不十分で失望している」「年末までに政策金利を4%を大きく上回る水準まで引き上げるだろう」との認識を示して、米10年債利回りが4.2%台まで上昇したことなどが背景にある。

CME FEDウォッチでは次回11月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.75%の利上げ確率は98%前後で推移しており、ほぼ確実視な状況とみられる。12月の会合では、0.75%の利上げ確率は75%前後ながら、0.50%の利上げ確率は24%前後となっている。今後の米経済指標の動向に左右されやすい展開ながら、12月の会合でも0.75%の利上げの可能性は高いとみられる。

10月24日の週のイベントでは、27～28日の日銀金融政策決定会合がある。引き続き緩和的な金融政策に変更はないとみられ、円売りにつながりやすい展開か。経済指標では、米国で28日に第3四半期の米GDP速報値が発表される。事前予想では前期比年率+2.2%となっており、第2四半期GDP確報値の-0.6%からプラス転換する見通し。28日の米9月個人消費支出（PCE）デフレーターやPCEコアデフレーターも注目される。インフレ率の高止まりが継続すると、12月以降の積極的な利上げ観測につながり、米長期金利の上昇やドル高につながりそうだ。

FRBによる積極的な利上げ姿勢と、金融緩和を継続する日銀のスタンスの違いにより、ドル買い円売りの動きに傾きやすく、ドル円は上昇基調で推移するとみられる。介入警戒感から上値を抑えられる可能性はあるものの、ドル円は上昇基調が継続して一段高が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、147.00～152.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、24日に米10月製造業PMI速報値、米10月サービス業PMI速報値、25日に米8月住宅価格指数、米8月S&Pケースシラー住宅価格指数、米10月消費者信頼感指数、26日に日本8月景気動向指数改定値、米9月新築住宅販売件数、27日に米第3四半期GDP速報値、米9月耐久財受注速報値、米新規失業保険申請件数、28日に日本9月雇用統計、日本9月有効求人倍率、日銀金融政策決定会合（27～28日）・金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米9月個人消費支出（PCE）デフレーター、米9月個人所得・個人支出、米第3四半期雇用コスト指数、米10月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは安値圏でのみ合いか】

ユーロドルは0.96～0.98台でのみ合いが続いている。欧州中央銀行（ECB）による大幅な利上げ観測はプラス要因となるものの、ウクライナ戦争の長期化によるユーロ圏の天然ガスなどのエネルギー資源の確保の問題やユーロ圏の景気減速への警戒感がユーロドルの上値を抑える。

ユーロ圏ではインフレ圧力が強い中、景気後退への警戒感が根強いことで、ユーロドルは上値を伸ばしにくく、レンジ相場での推移となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9600～1.0000ドル。

17日に英トラス政権が政権発足後に打ち出していた大規模な減税策のほぼすべてを撤回すると表明したことで、英国での金融市場の混乱が落ち着くとの見方から、ポンドドルやポンド円は堅調な動きを見せた。ポンドドルは一時1.14台前半まで上昇、ポンド円170円台に乗せた。ただ、買いが一巡すると、いずれも高値圏から伸び悩んでいる。

トラス英首相は20日に辞任を表明した。大型減税を打ち出したものの、財政悪化への警戒感から市場が混乱することとなった。今後は英国の金融市場への過度な警戒感が後退して、ポンドドルは落ち着きを取り戻すが注目される。材料次第では再び売りに押される可能性もあり、上値の重い展開か。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.1

000～1,1500ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、24日に独10月製造業PMI速報値、独10月非製造業PMI速報値、ユーロ圏10月製造業PMI速報値、ユーロ圏10月非製造業PMI速報値、英10月製造業PMI速報値、英10月非製造業PMI速報値、25日に独10月IFO景況感指数、26日に豪9月消費者物価指数、豪第3四半期消費者物価指数、カナダ銀行（BOC）政策金利、27日に欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルドECB総裁記者会見、28日に豪第3四半期生産者物価指数、スイス10月KOF先行指数、独第3四半期GDP速報値、独10月消費者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。